

高齡者実態調査報告書

《介護保険サービス利用者・未利用者調査及び介護者調査》

平成29年3月

大阪市

- 目 次 -

1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査設計	1
(3)	調査項目	1
(4)	回収状況	2
(5)	報告書の見方	3
2	サービス利用者調査結果	5
(1)	調査回答者の基本属性	5
問1	調査票記入者	5
問2	(1)性別	6
問2	(2)年齢	6
問2	(3)居住区	7
問3	要介護度	8
(2)	世帯の状況	9
問4	世帯の状況(同居家族)	9
問5	介護する人の有無	12
(3)	健康状況	13
問6	初めて要介護認定を受けた時の目的	13
問6-1	初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気	14
問6-2	要介護認定を受けるよう勧めた人	17
問7	要介護認定を受けた時の不満	18
問7	要介護度認定を受けた時の不満な理由	18
問8	現在の自宅で受けている医療に関するサービス	19
問8	訪問される方	20
(4)	介護保険サービスの利用状況と利用に対する考え	22
問9	現在の住まい	22
問9-1	現在利用している在宅の介護保険サービス	23
問9-2	現在利用している施設の介護保険サービス	26
問9-3	施設等に入所を希望した理由	28
問9-4	施設等に入所してからの期間	30
問10	現在利用している介護保険サービスの満足度	31
問11	介護支援専門員(ケアマネジャー)の満足度	34
問12	1年以内に利用したい介護保険サービス	36
問12-1	1年以内に利用したい在宅の介護保険サービス	38
問12-2	1年以内に利用したい施設の介護保険サービス	41
(5)	介護予防の取り組み	43
問13	介護予防としての取り組み	43

問 13-1 介護予防に取り組んでいない理由	46
(6) 介護保険制度についての意見・要望等 (自由記述)	48
3 サービス未利用者調査結果	49
(1) 調査回答者の基本属性	49
問 1 調査票記入者	49
問 2 (1) 性別	50
問 2 (2) 年齢	50
問 2 (3) 居住区	51
問 3 要介護度	52
(2) 世帯の状況	53
問 4 世帯の状況 (同居家族)	53
問 5 介護する人の有無	57
(3) 健康状況	58
問 6 初めて要介護認定を受けた時の目的	58
問 6-1 初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気	59
問 6-2 要介護認定を受けるよう勧めた人	62
問 7 要介護認定を受けた時の不満	63
問 7 要介護度認定を受けた時の不満な理由	63
問 8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス	64
問 8 訪問される方	65
(4) 介護保険サービスの利用状況と利用に対する考え	67
問 9 介護保険サービスの利用状況	67
問 10 介護保険サービスを利用していない理由	69
問 11 1年以内に利用したい介護保険サービス	71
問 11-1 1年以内に利用したい在宅の介護保険サービス	73
問 11-2 1年以内に利用したい施設の介護保険サービス	76
(5) 介護予防の取り組み	78
問 12 介護予防としての取り組み	78
問 12-1 介護予防に取り組んでいない理由	81
(6) 介護保険制度についての意見・要望等 (自由記述)	83
4 介護者調査結果	85
(1) 介護者の基本属性	85
問 14(13) 本人との関係	85
問 15(14) (1) 介護者の性別	87
問 15(14) (2) 介護者の年齢	89
問 15(14) (3) 同居の有無	92
問 15(14) (3) 同居していない介護者の居住区	96
問 16(15) 介護者の健康状態	97
(2) 介護の状況	98
問 17(16) 1日平均の介護時間	98
問 18(17) 本人以外でよく話をする相手	101

問 19(18)	介護保険サービス提供者以外で介護を手助けしてくれる方	102
問 20(19)	本人の認知症の程度	103
問 21(20)	本人への介護内容	109
(3)	介護上の問題	113
問 22(21)	介護を行ううえで困っていること	113
問 23(22)	介護者の虐待の有無	115
問 24(23)	相談窓口等の利用状況	120
問 24-1(23-1)	介護を行ううえで困った時の相談先	121
問 25	介護保険サービスを利用することによる介護者の変化(サービス利用者)	122
問 26	介護保険サービスについての介護者の満足度(サービス利用者)	123
問 24	介護保険サービスの利用希望(サービス未利用者)	126
問 27(25)	在宅での介護を続けるために重要なこと	127
(4)	介護離職に関する問題	128
問 28(26)	介護者の就業状況	128
問 29(27)	介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス	140
問 29-1(27-1)	介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス	142
問 29-2(27-2)	介護者が仕事を続けるために必要な施設の介護保険サービス	151
問 30(28)	介護者が仕事を続けるにあたって不安なこと	156
(5)	介護保険制度についての意見・要望等(自由記述)	159

1 調査概要

(1) 調査目的

大阪市内に居住する要支援・要介護認定者及びその介護者を対象に、介護保険サービスの利用状況と利用意向、介護の状況などを把握し、大阪市における今後の高齢者施策及び介護保険事業の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

調査地域：大阪市内全域

調査対象：

介護保険サービス利用者

大阪市内に居住する要支援・要介護認定者で、平成28年1月から3か月の間、介護サービスを利用した方から無作為抽出した5,200人

介護保険サービス未利用者

大阪市内に居住する要支援・要介護認定者で、平成28年1月から3か月の間、介護サービスを利用しなかった方から無作為抽出した5,600人

介護者

上記・の対象者を介護している者（介護サービス事業者を除く）

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：平成28年7月1日から平成28年7月31日

(3) 調査項目

〔1〕介護保険サービス利用者

調査回答者の基本属性

調査票記入者、性別、年齢、居住区、要介護度
世帯の状況

同居家族、介護する人の有無

健康状況

要介護認定の状況、医療サービスの状況

介護保険サービスの利用状況と利用に対する考え

現在の住まい、現在利用している介護保険サービス、介護保険施設の入所（入居）の状況、介護保険サービス・ケアマネジャーに対する満足度、1年以内に利用したい介護保険サービス

介護予防の取り組み

介護予防としての取り組み、取り組んでいない理由

介護保険制度についての意見・要望等

自由記述

〔2〕介護保険サービス未利用者

調査回答者の基本属性

調査票記入者、性別、年齢、居住区、要介護度

世帯の状況

同居家族、介護する人の有無

健康状況

要介護認定の状況、医療サービスの状況

介護保険サービスの利用状況と利用に対する考え

介護保険サービスの利用状況、介護保険サービスの未利用理由、1年以内に利用したい介護保険サービス

介護予防の取り組み

介護予防としての取り組み、取り組んでいない理由

介護保険制度についての意見・要望等

自由記述

〔3〕介護者

介護者の基本属性

本人との関係、介護者の性別・年齢、同居の有無、介護者の健康状態

介護の状況

1日平均の介護時間、介護者の話し相手、介護を手助けしてくれる人の有無、本人の認知症の程度、本人への介護内容

介護上の問題点

介護を行ううえで困っていること、虐待の有無、相談窓口等の利用状況、介護で困った時の相談先、介護保険サービスを利用することによる介護者の変化【利用者調査のみ】、介護保険サービスに対する介護者の満足度【利用者調査のみ】、介護者の介護保険サービス利用に対する考え【未利用者調査のみ】、在宅介護を継続するために重要な支援、介護者の就業状況、仕事を続けるために必要な介護保険サービス、仕事を続けるにあたって不安なこと

介護保険制度についての意見・要望等

自由記述

（4）回収状況

〔1〕介護保険サービス利用者調査

調査対象者	回収数	集計対象外数	有効回答数	有効回答率
(a)	(b)	(c)	(d)=(b)-(c)	(e)=(d)/(a)
5,200	2,674	231	2,443	47.0%

集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

現在介護保険サービスを利用していない	病院に入院中	本人の意思が確認できない	転居	死亡	白票	その他	計
62	24	73	3	17	3	49	231

〔 2 〕 介護保険サービス未利用者調査

調査対象者	回収数	集計対象外数	有効回答数	有効回答率
(a)	(b)	(c)	(d)=(b)-(c)	(e)=(d)/(a)
5,600	2,765	856	1,909	34.1%

集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

現在介護保険サービスを利用している	病院に入院中	本人の意思が確認できない	転居	死亡	白票	その他	計
344	302	13	4	28	3	162	856

〔 3 〕 介護者調査

	回答数
介護保険サービス利用者調査	1,540
介護保険サービス未利用者調査	1,281

（ 5 ） 報告書の見方

回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）

図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA％」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。

コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

報告書記載の「前回調査」とは、平成25年10月実施の高齢者実態調査の結果を示している。

介護サービス利用者調査 編

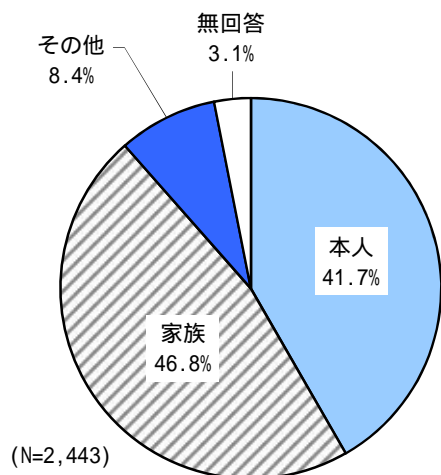
2 サービス利用者調査結果

(1) 調査回答者の基本属性

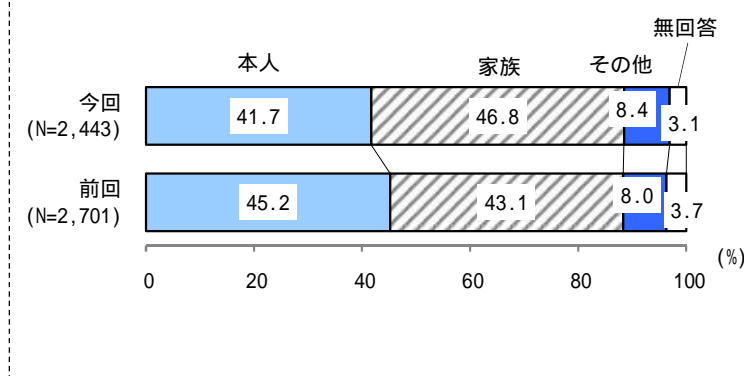
問1 調査票記入者

この調査票をご記入されるのはどなたですか。(はひとつ)

【図1 調査票記入者】



【図1-1 調査票記入者(比較)】



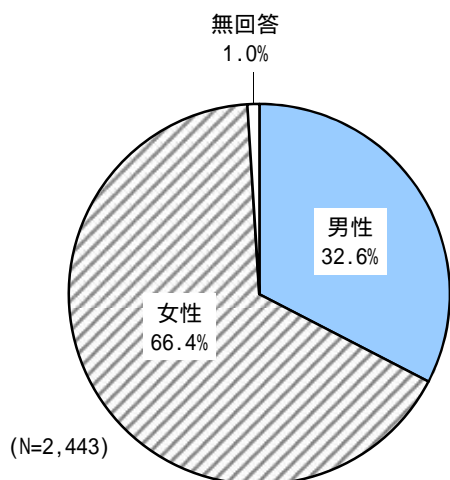
調査票記入者は、「本人」が41.7%、「家族」が46.8%となっている。(図1)

前回調査と比較すると、「本人」が3.5ポイント減少し、「家族」が3.7ポイント増加している。(図1-1)

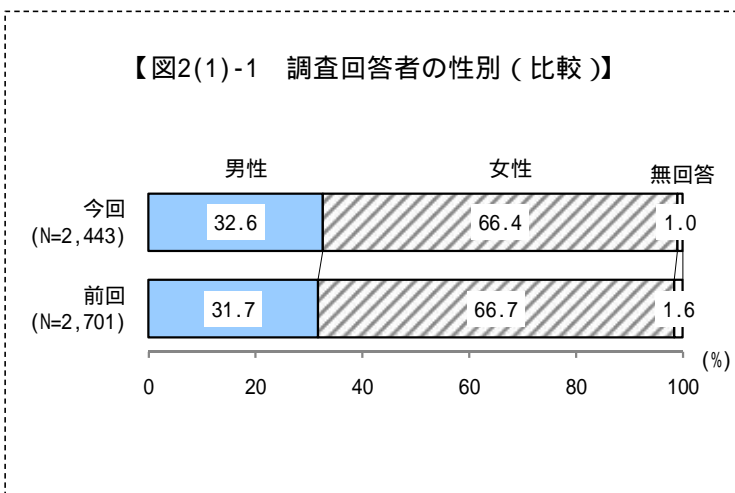
問2 (1) 性別

あなたの性別、年齢、居住区についておたずねします。(それぞれ はひとつ)

【図2(1) 調査回答者の性別】



【図2(1)-1 調査回答者の性別 (比較)】

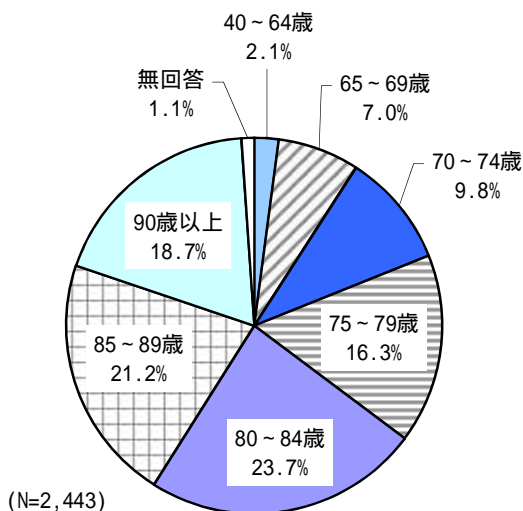


調査回答者の性別は、「男性」が32.6%、「女性」は66.4%で、女性のほうが多くなっている。(図2(1))

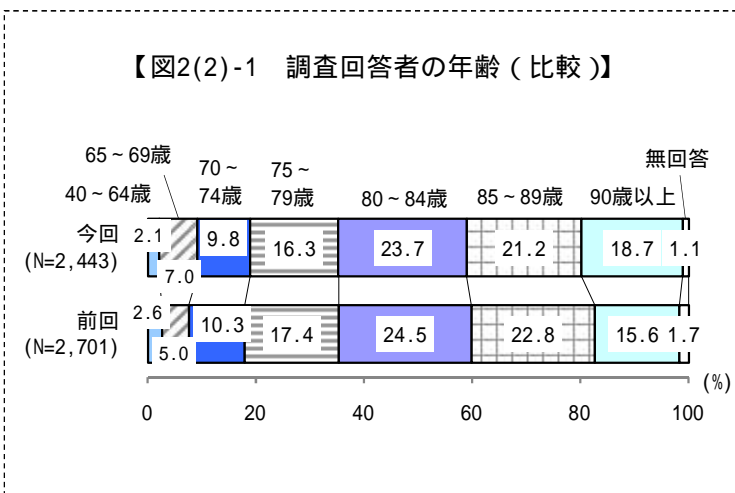
前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(図2(1)-1)

問2 (2) 年齢

【図2(2) 調査回答者の年齢】



【図2(2)-1 調査回答者の年齢 (比較)】

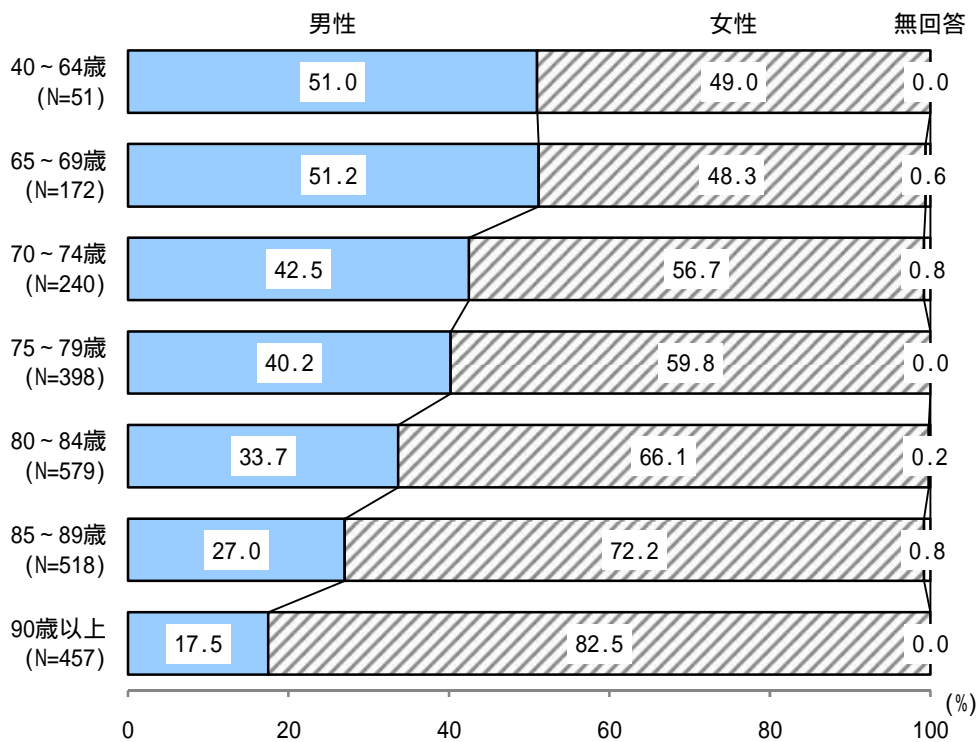


調査回答者の年齢は、「80~84歳」が23.7%で最も多く、次いで「85~89歳」が21.2%、「90歳以上」が18.7%となっており、75歳以上の後期高齢者の割合は79.9%と高くなっている。(図2(2))

前回調査と比較すると、「90歳以上」が3.1ポイント増加している。(図2(2)-1)

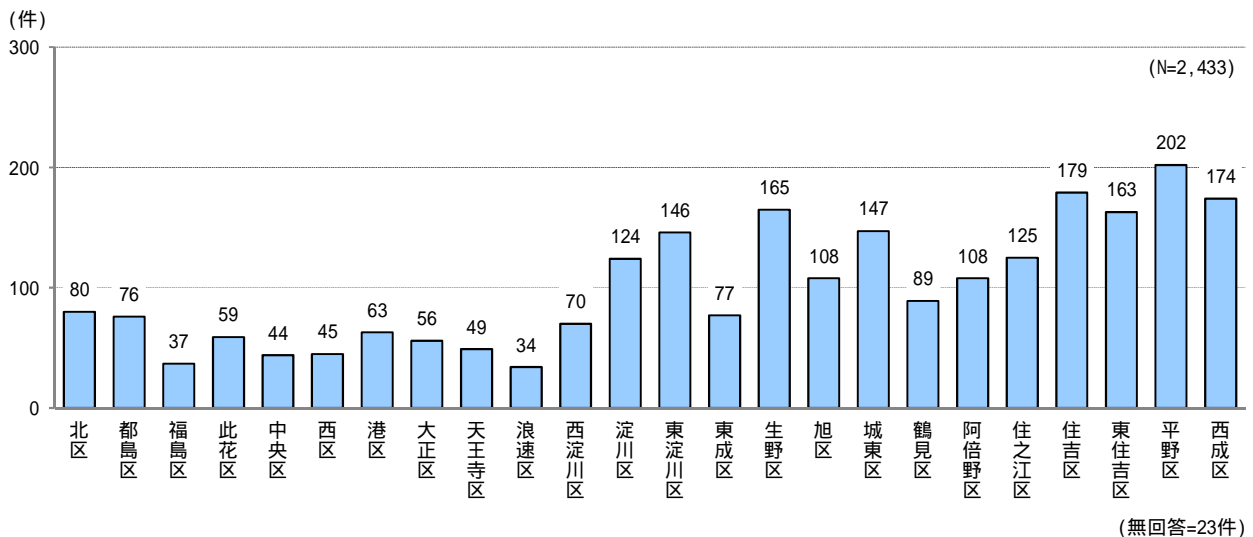
調査回答者の性別でみると、40～64歳と65～69歳は“男性”のほうが多く、70歳以降では“女性”のほうが多くなっている。(図2(2)-a)

【図2(2)-a 調査回答者の年齢（調査回答者の性別）】



問2 (3) 居住区

【図2(3) 居住区】

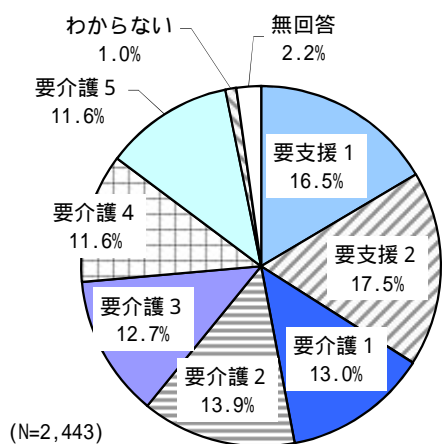


調査回答数について、「平野区」が202件で最も多く、次いで「住吉区」が179件、「西成区」が174件となっている。(図2(3))

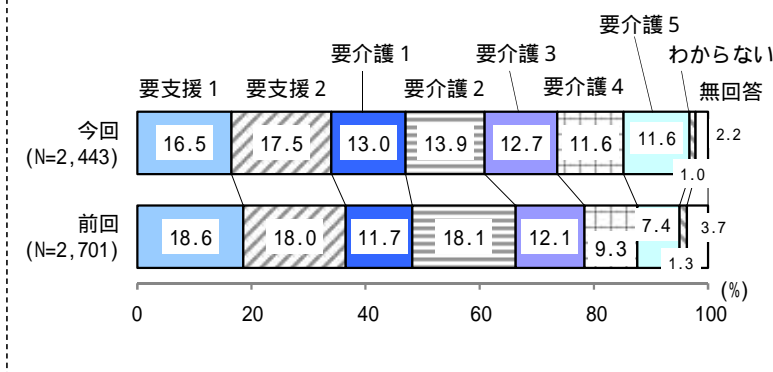
問3 要介護度

あなたの要介護度についておたずねします。(はひとつ)

【図3 調査回答者の要介護度】



【図3-1 調査回答者の要介護度（比較）】



調査回答者の要介護度は、「要支援2」が17.5%で最も多く、次いで「要支援1」が16.5%、「要介護2」が13.9%となっている。(図3)

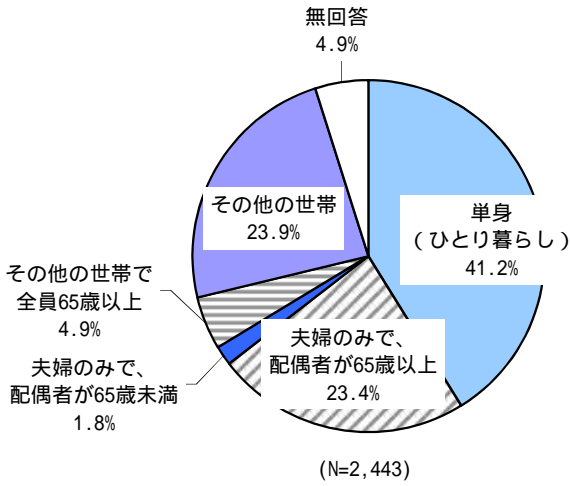
前回調査と比較すると、「要介護5」が4.2ポイント増加している。(図3-1)

(2) 世帯の状況

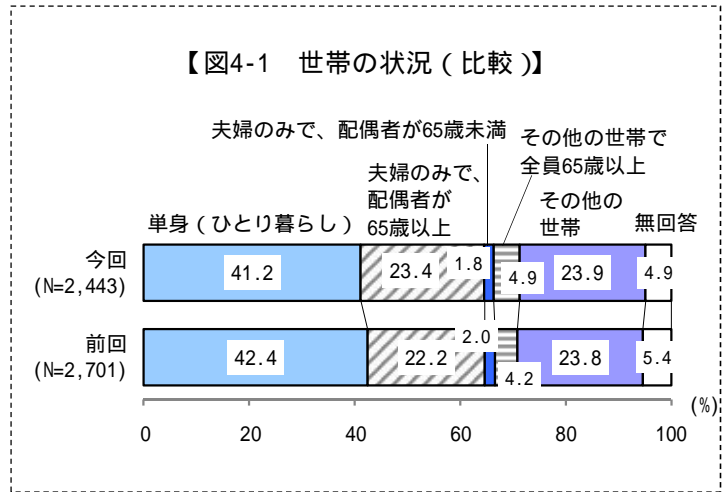
問4 世帯の状況(同居家族)

あなたと同居されているご家族の状況についておたずねします。(はひとつ)

【図4 世帯の状況】



【図4-1 世帯の状況(比較)】



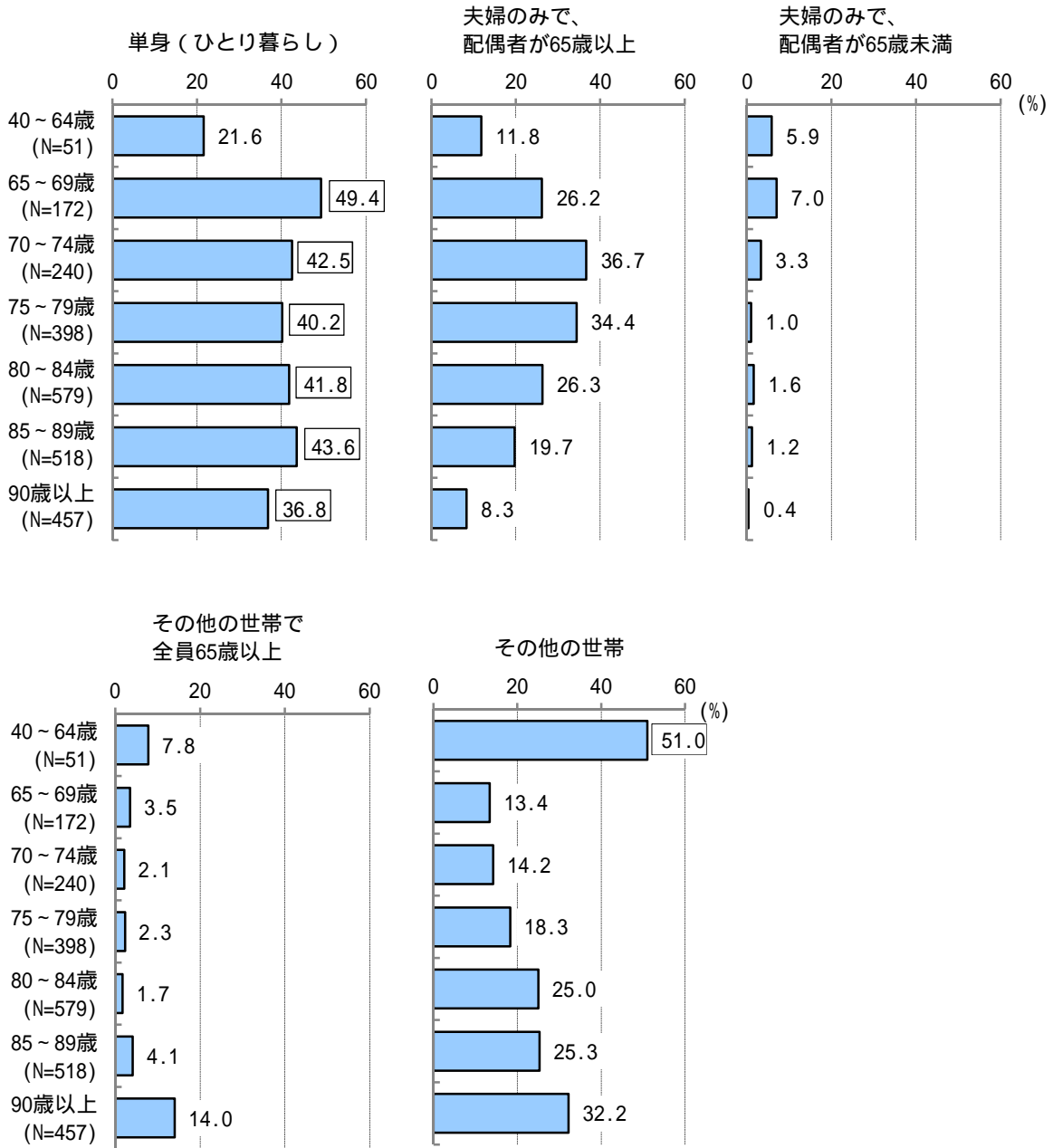
調査回答者の世帯の状況については、「ひとり暮らし」が41.2%で最も多くなっている。次いで「その他の世帯」が23.9%、「夫婦のみで、配偶者が65歳以上」が23.4%となっている。

(図4)

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(図4-1)

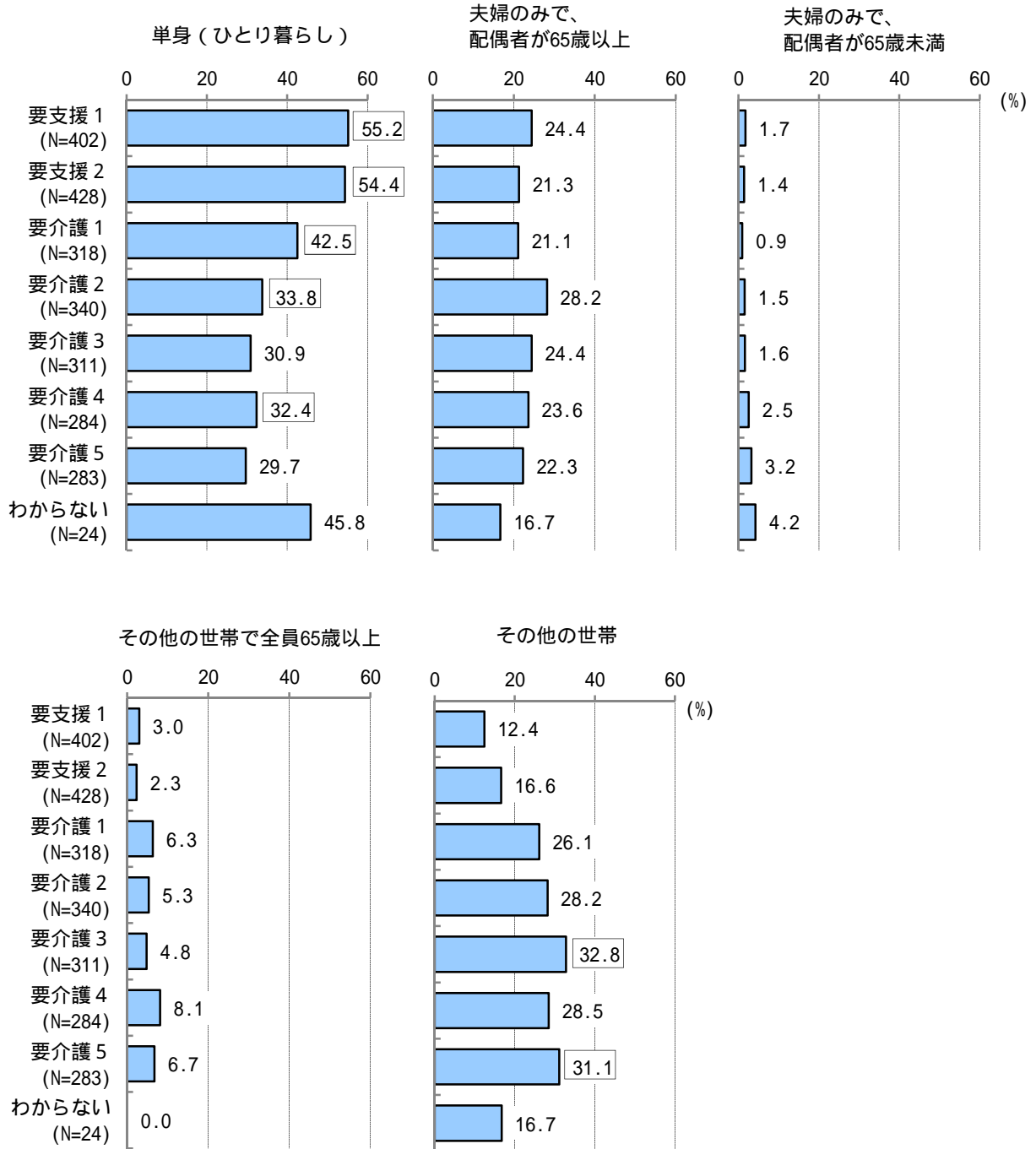
年齢別で見ると、65歳以降は「単身（ひとり暮らし）」が最も多くなっている。これに次いで、65～69歳・70～74歳・75～79歳・80～84歳は「夫婦のみで、配偶者が65歳以上」が多く、85～89歳・90歳以上では「その他世帯」が多くなっている。（図4-a）

【図4-a 世帯の状況（年齢別）】



要介護度別で見ると、全体的に「単身(ひとり暮らし)」の割合が高いが、要介護度が高いほど、「単身(ひとり暮らし)」の割合が低く、「その他世帯」の割合が高くなる傾向となっている。(図4-b)

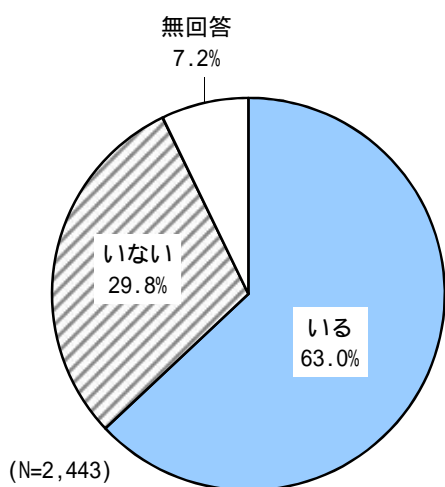
【図4-b 世帯の状況(要介護度別)】



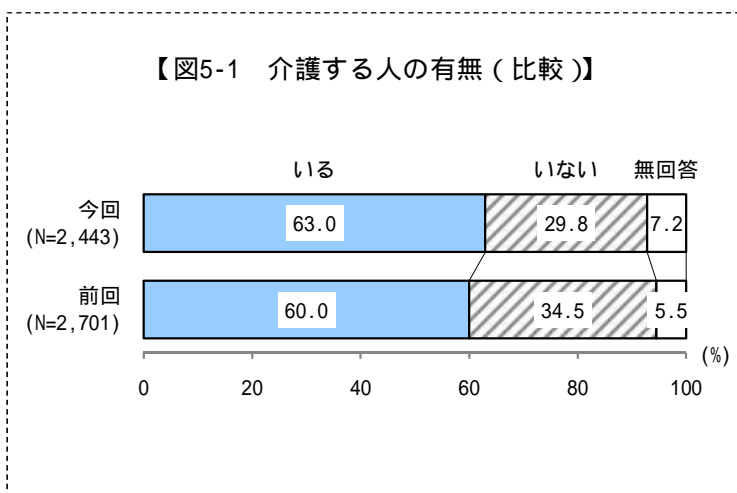
問5 介護する人の有無

あなたの介護をする方はいますか。(はひとつ)

【図5 介護する人の有無】



【図5-1 介護する人の有無 (比較)】

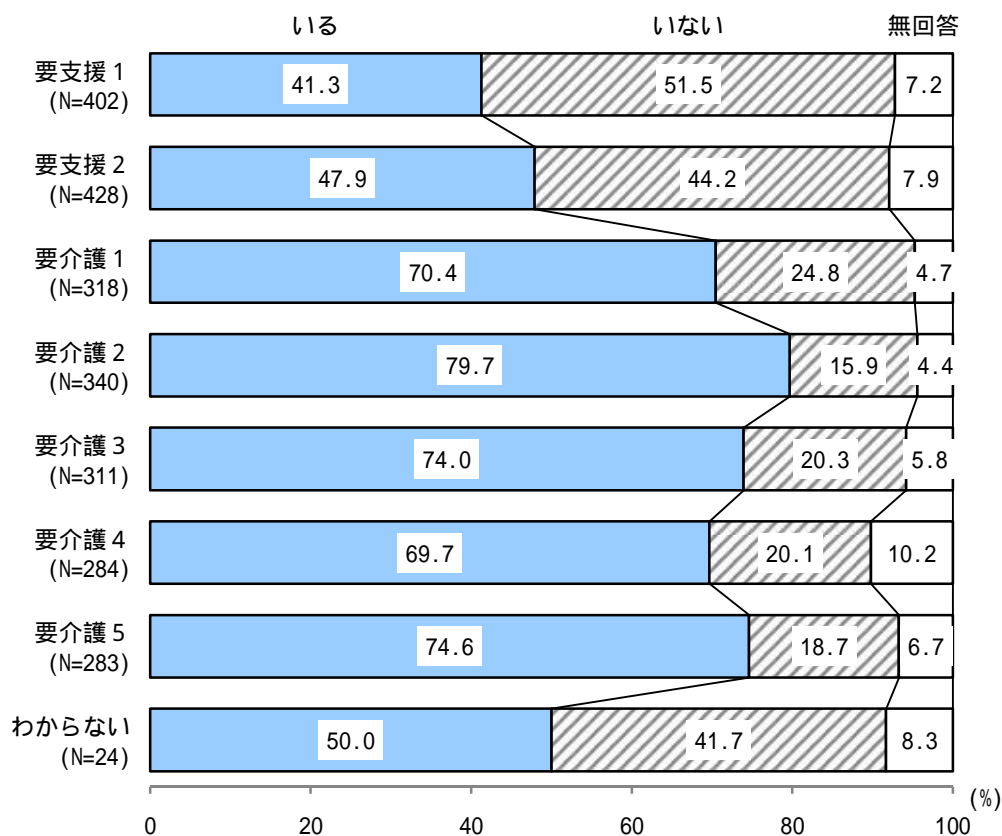


介護をする人は、「いる」が63.0%、「いない」は29.8%となっている。(図5)

前回調査と比較すると、「いる」が3.0ポイント増加している。(図5-1)

要介護度別で見ると、要支援1は「いない」が51.5%となっているが、要支援2以上では「いる」のほうが多く、要介護1～5になると7割前後を占めている。(図5-a)

【図5-a 介護する人の有無 (要介護度別)】

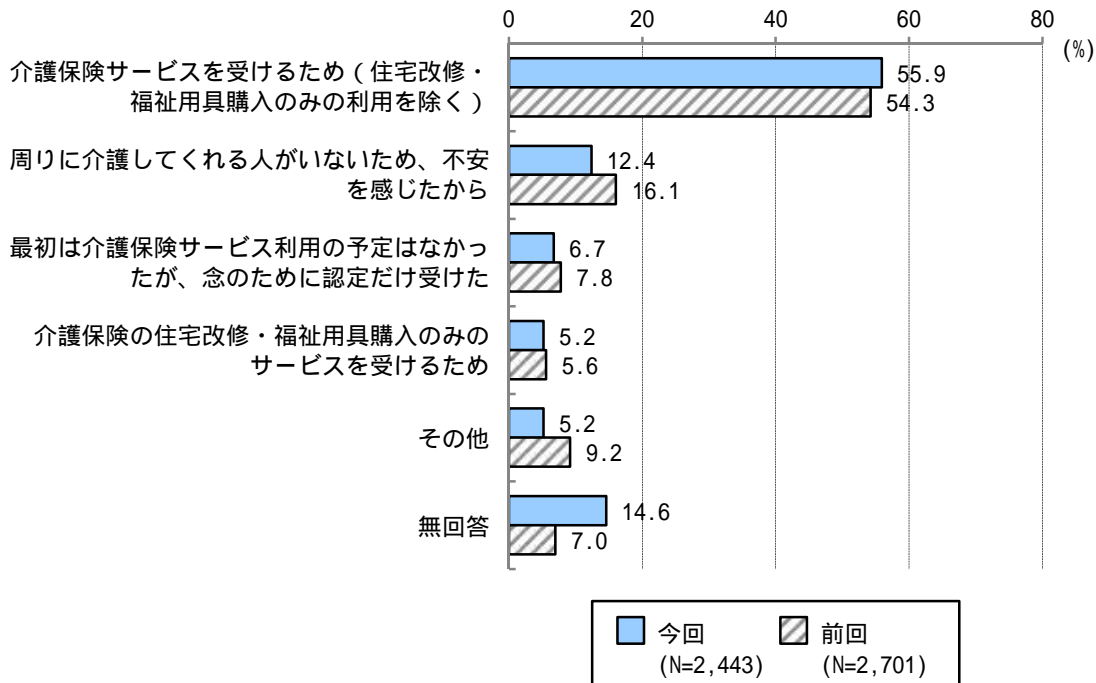


(3) 健康状況

問6 初めて要介護認定を受けた時の目的

あなたが、初めて要介護認定を受けた時の目的は何ですか。(はひとつ)

【図6 初めて要介護認定を受けた時の目的】



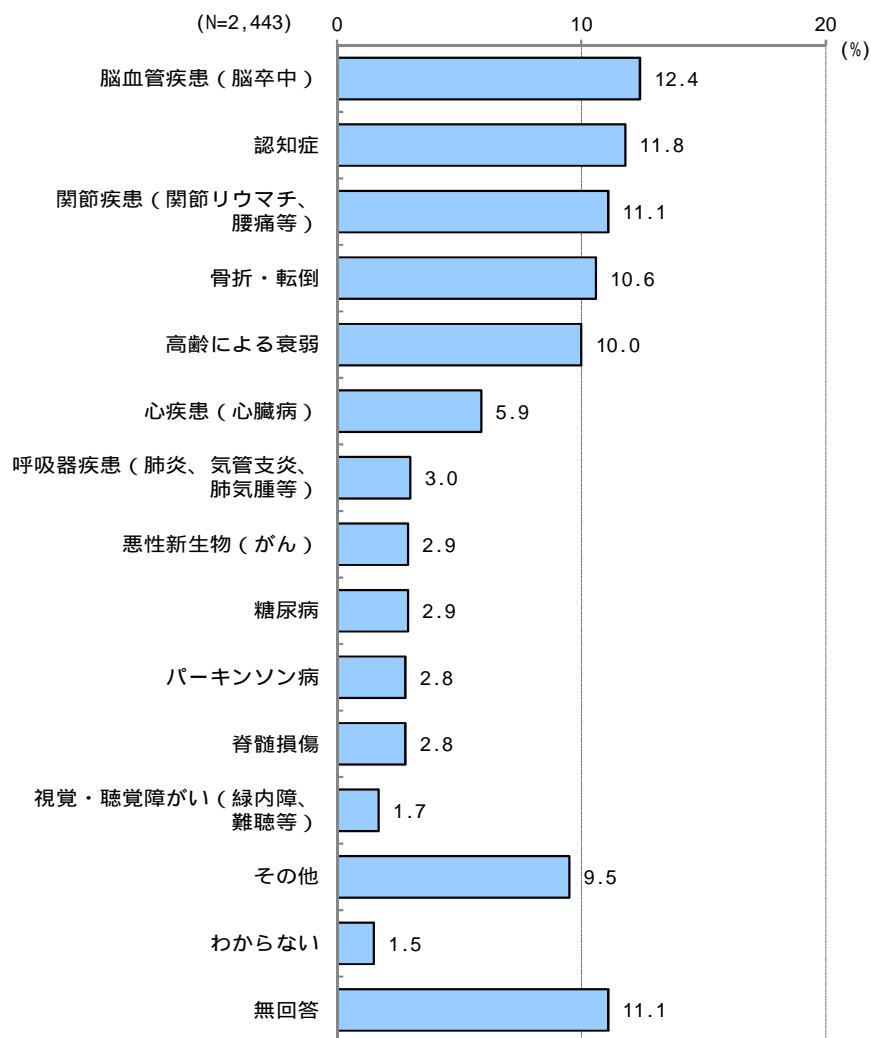
初めて要介護認定を受けた時の目的については、「介護保険サービスを受けるため(住宅改修・福祉用具購入のみの利用を除く)」が55.9%で最も多く、次いで「周りに介護をしてくれる人がいないため、不安を感じたから」が12.4%となっている。

前回調査と比較すると、「周りに介護をしてくれる人がいないため、不安を感じたから」が3.7ポイント減少している。(図6)

問6-1 初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気

あなたが、初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気は何ですか。(はひとつ)

【図6-1 初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気】

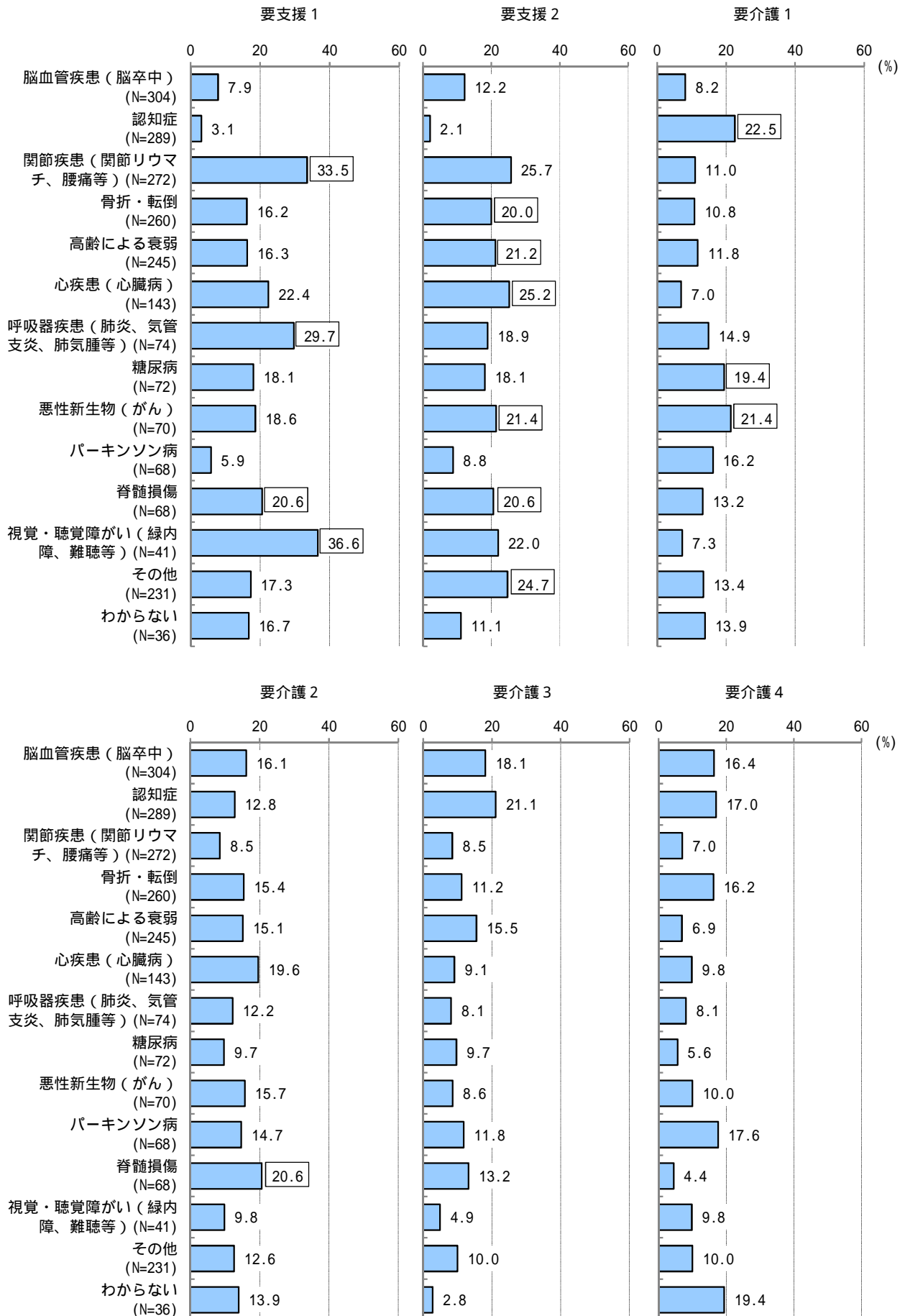


初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気については、「脳血管疾患 (脳卒中)」が12.4%で最も多く、次いで「認知症」が11.8%、「関節疾患(関節リウマチ、腰痛等)」が11.1%、「骨折・転倒」が10.6%、「高齢による衰弱」が10.0%となっている。

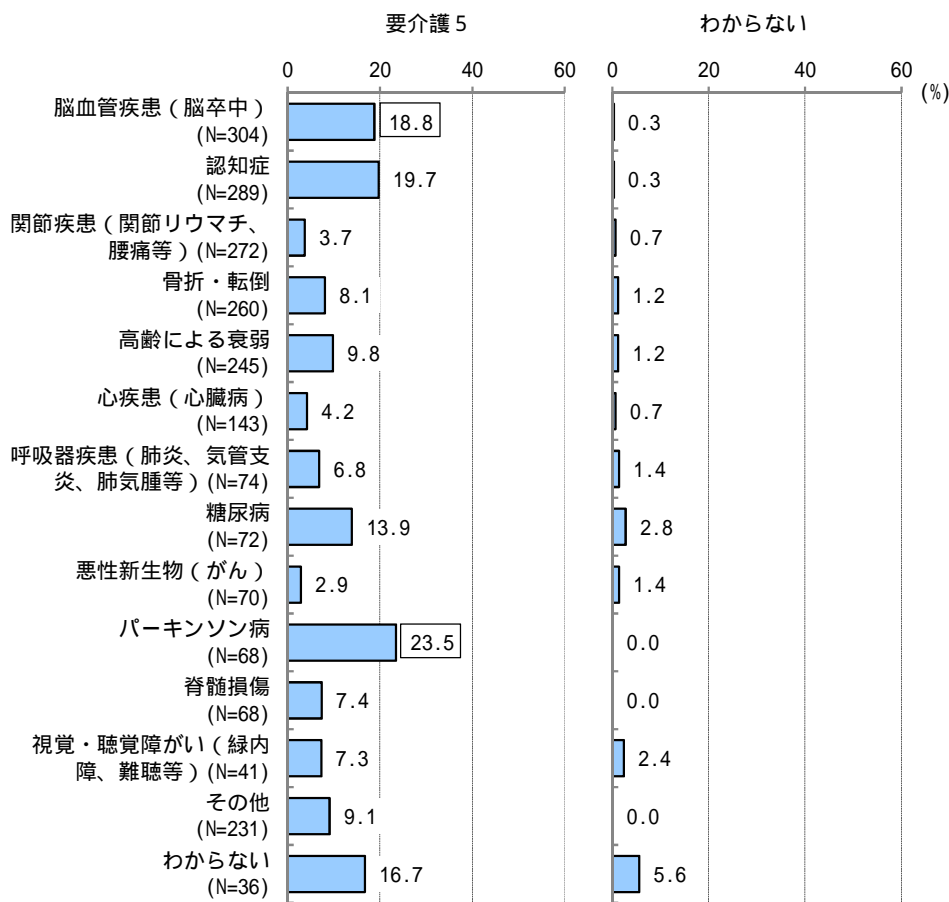
なお、「その他」として、「身体障がい (65歳到達により介護保険サービスに移行)」、「精神障がい・精神疾患 (うつ病、統合失調症等)」などがあった。(図6-1)

要介護度別で見ると、「関節疾患 (関節リウマチ、腰痛等)」や「呼吸器疾患 (肺炎、気管支炎、肺気腫等)」、「視覚・聴覚障がい (緑内障、難聴等)」は要支援1で最も多くなっており、「骨折・転倒」や「高齢による衰弱」、「心疾患 (心臓病)」は要支援2で最も多くなっている。「認知症」、「糖尿病」は要介護1で最も多く、「脳血管疾患 (脳卒中)」、「パーキンソン病」は要介護5で最も多くなっている。また、「悪性新生物 (がん)」は要支援2と要介護1で最も多くなっており、「脊髄損傷」は要支援1、要支援2、要介護2で最も多くなっている。(図6-1-a)

【図6-1-a 初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気（要介護度別）】



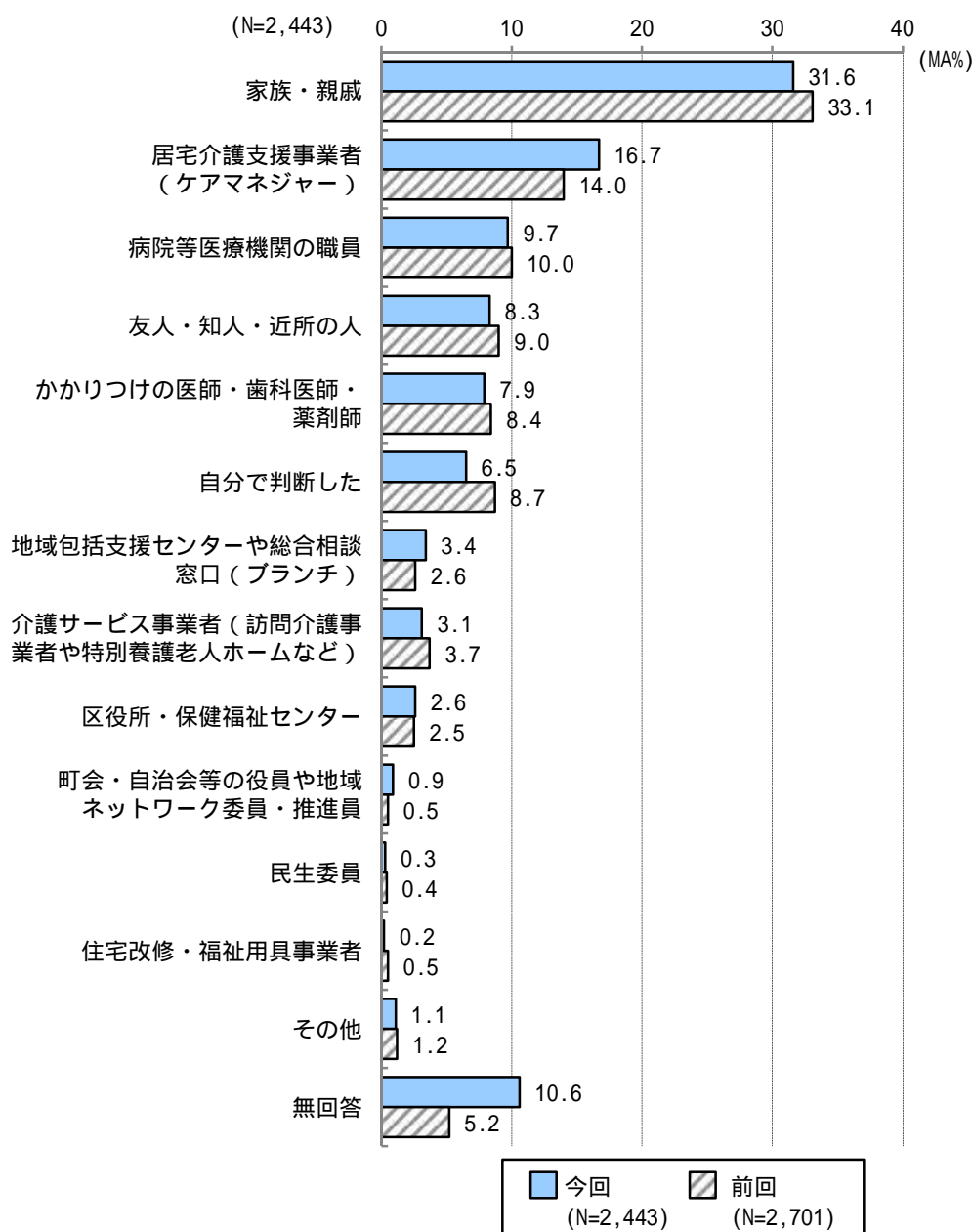
【図6-1-a 初めて要介護認定を受けた時の主な原因や病気（要介護度別）】



問6-2 要介護認定を受けるよう勧めた人

要介護認定を受けるよう勧めたのはどなたですか。(はひとつ)

【図6-2 要介護認定を受けるよう勧めた人】



今回調査では、複数回答の回答者が多かったため、すべての回答を有効としている。

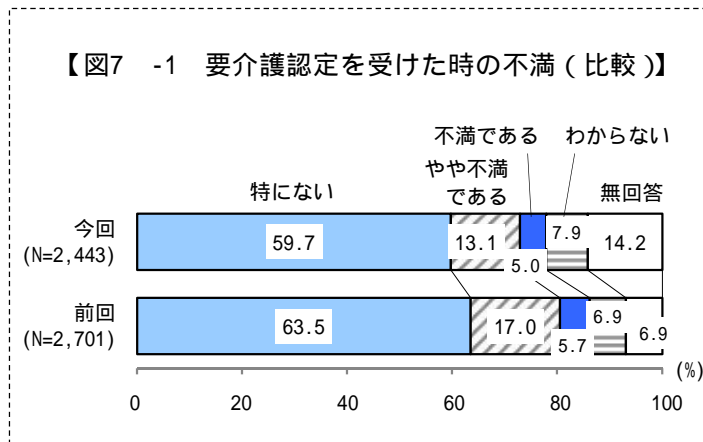
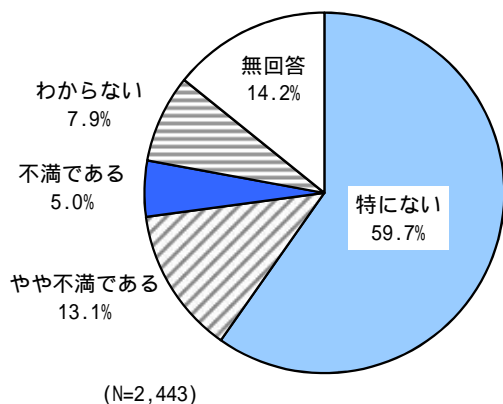
要介護認定を受けるよう勧めた人については、「家族・親戚」が31.6%で最も多く、次いで「居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)」が16.7%、「病院等医療機関の職員」が9.7%となっている。

前回調査と比較すると、「居宅介護支援事業者(ケアマネジャー)」が2.7ポイント増加している。(図6-2)

問7 要介護認定を受けた時の不満

要介護認定について、何かご不満な点がありましたか。(はひとつ)

【図7 要介護認定を受けた時の不満】



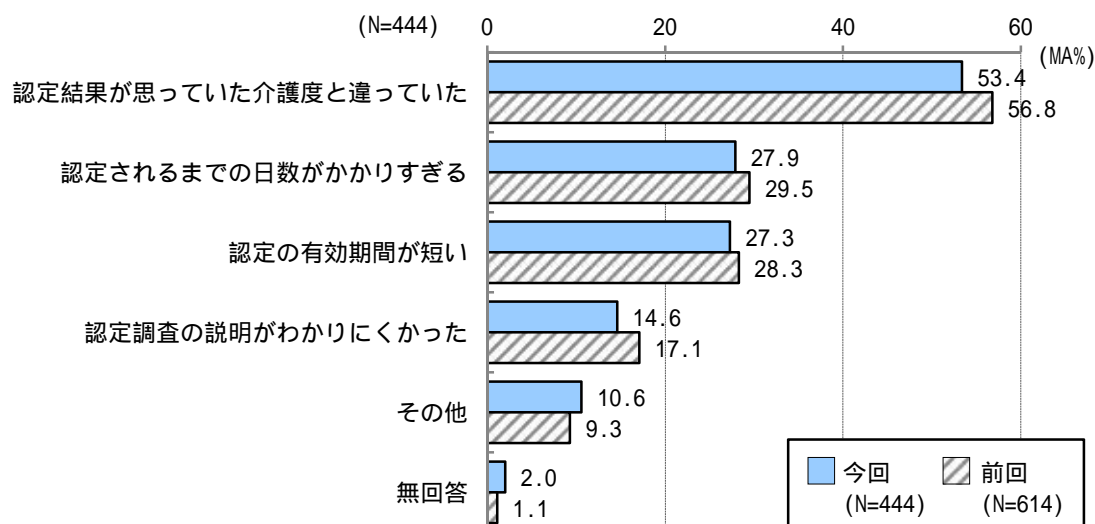
要介護認定を受けた時の不満については、「特にない」が59.7%で最も多く、次いで「やや不満である」が13.1%、「不満である」は5.0%となっている。(図7)

前回調査と比較すると、「特にない」が3.8ポイント減少しているが、「やや不満である」や「不満である」も減少している。(図7 -1)

問7 要介護認定を受けた時の不満な理由

【問7で「2 やや不満である」「3 不満である」に つけた方のみお答えください。】
その理由についてお答えください。(はいくつでも)

【図7 要介護認定を受けた時の不満な理由】



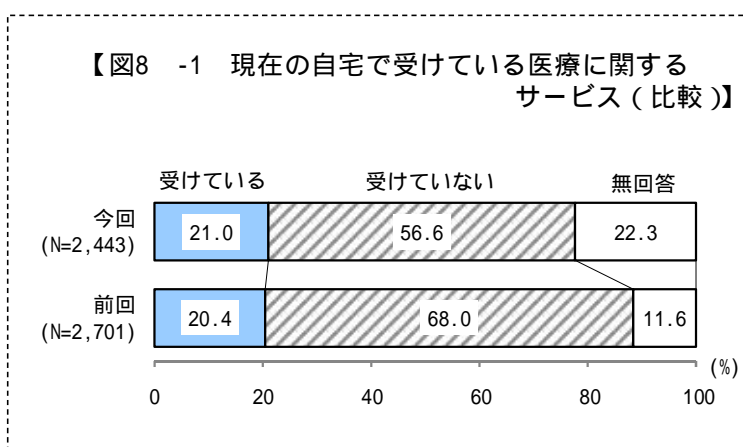
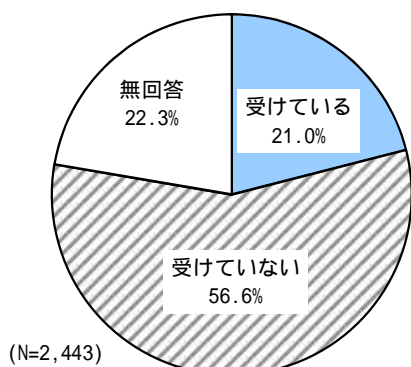
要介護認定に不満がある理由については、「認定結果が思っていた介護度と違っていった」が53.4%で最も多く、次いで「認定されるまでの日数がかかりすぎる」が27.9%、「認定の有効期間が短い」が27.3%となっている。なお、「その他」として、「訪問調査員の判断基準が不明確」、「訪問調査員の対応(態度)」などがあつた。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向であるが、いずれの項目も前回より低くなっている。(図7)

問8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス

あなたは現在、医師などの訪問により、自宅での診察などを受けていますか。(はひとつ)

【図8 現在の自宅で受けている医療に関するサービス】

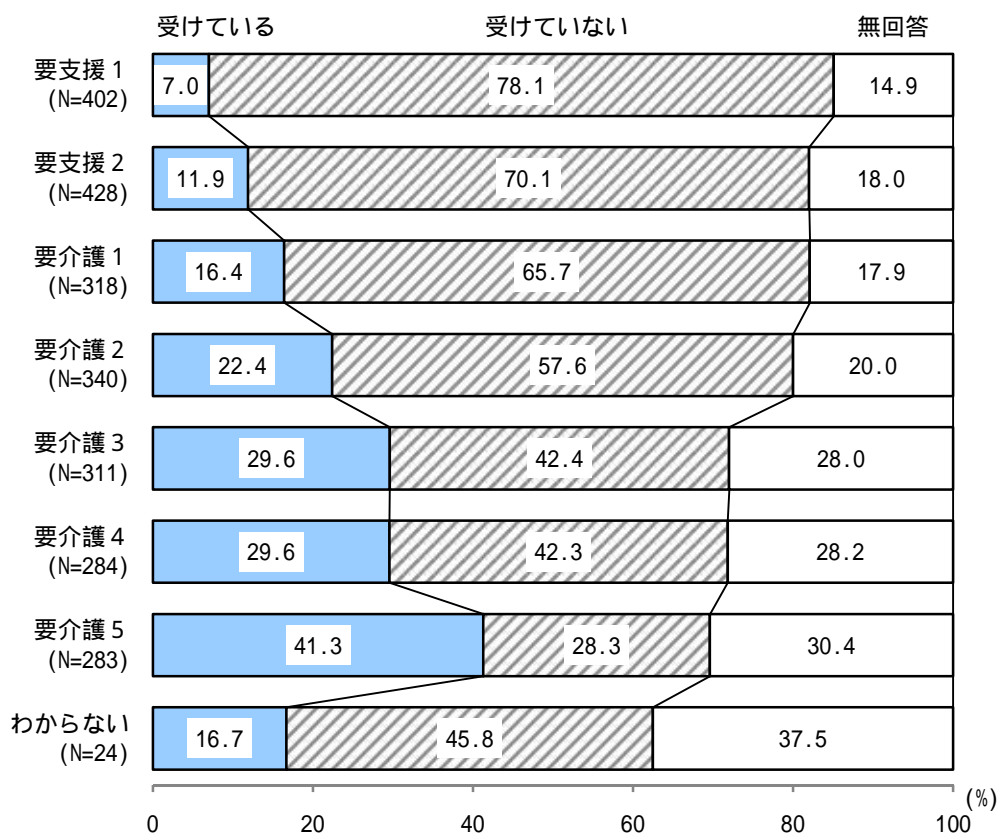


現在、医師などの訪問による自宅での診察などを「受けている」人は21.0%、「受けていない」人は56.6%となっている。(図8)

前回調査と比較すると、「受けていない」が11.4ポイント減少している。(図8 -1)

要介護度別で見ると、要介護度が高くなるほど、「受けている」割合が高くなっており、要介護度5では41.3%となっている。(図8 -a)

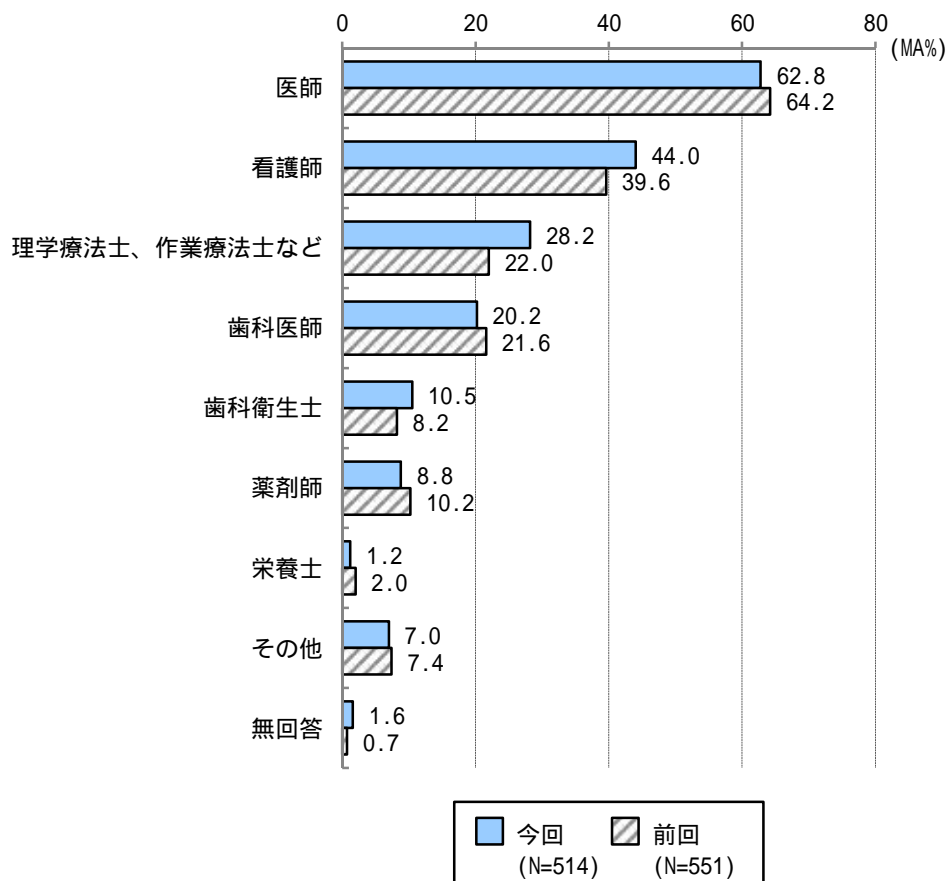
【図8 -a 現在の自宅で受けている医療に関するサービス(要介護度別)】



問8 訪問される方

【問8で「1 はい」に つけた方のみお答えください。
訪問されている方をお答えください。(はいいくつでも)

【図8 訪問されている方】



訪問されている方については、「医師」が62.8%で最も多く、次いで「看護師」が44.0%、「理学療法士、作業療法士など」が28.2%となっている。

前回調査と比較すると、「理学療法士、作業療法士など」が6.2ポイント、「看護師」が4.4ポイント増加している。(図8)

要介護度別で見ると、要支援1と要介護1～5は「医師」が最も多く、要支援2では「理学療法士、作業療法士など」が最も多くなっている。また、「歯科医師」や「歯科衛生士」、「薬剤師」では、要介護度が高くなるほど割合が上昇傾向にある。(図8 -a)

【図8 -a 訪問されている方(要介護度別)】

